

戦後70年、「歴史認識」を考える

2015年4月18日

第35回絆サロン

小川郷太郎

1. 各国それぞれの「戦後70年」「歴史問題」

- (1) 中国、韓国、ロシア、仏、独、米・・・
- (2) ナショナリズムを克服して世界的視野で考えるべき問題
- (3) 日本とアメリカ：原爆、空襲、日系人収容、広島・長崎と真珠湾

2. 「歴史」の問題：体験を通じて学んだこと

- (1) アメリカの家庭で原爆論争
- (2) フィリピン、韓国、ホノルル：被害国民の心情
- (3) ロシアとリトアニア：第三国間の歴史問題
- (4) デンマークにて（小泉首相の靖国参拝）

3. 国際化した日本の「歴史認識問題」

- (1) 「安倍談話」に近隣国からの牽制球、教科書検定への反応
- (2) アメリカ等第三国の対日観への影響、日本への期待
- (3) 克服できない「歴史問題」が原因

4. 「歴史認識」が日本外交の大きな足枷：なぜ？

- (1) 裏目に出た日本の対応：反論の態様、国論の不統一
e.g. 米下院決議121号とワシントン・ポストへの反論
- (2) 中国、韓国の反日広報外交（« sex slaves », 安保理常任理事国入り問題）
- (3) 米下院の非難決議

5. ドイツと日本

- (1) 「過去」に対する姿勢、国民的合意の有無
- (2) 仏独和解と欧州統合
- (3) 発展するアジア太平洋地域での日中韓関係

6. 村山談話*

- (1) 「国策を誤り」「植民地支配と侵略」「痛切な反省」「心からのお詫び」
- (2) 戦後50年、時の総理が世界に向けた日本政府の公式見解

(3) 各国の評価と日本国内の反応

7. どうすべきか

- (1) 「歴史を鏡に」 vs. 「未来志向で」：どちらも必要
- (2) 誇るべき日本の戦後外交
- (3) 歴史に対する謙虚さ：国家の品格
- (4) 「歴史」に対する国民の認識を近づける

8. むすび

- (1) 被害者と加害者の違い：人間の感情→相手の立場に立って考える
- (2) 「世界の中の日本」の視点を
- (3) 注目される総理の米議会演説と「談話」

(資料) *村山談話

戦後 50 周年の終戦記念日にあたって (主要部分)

いま、戦後 50 周年の節目に当たり、われわれが銘記すべきことは、来し方を訪ねて歴史の教訓に学び、未来を望んで、人類社会の平和と繁栄への道を誤らないことであります。

わが国は、遠くない過去の一時期、国策を誤り、戦争への道を歩んで国民を存亡の危機に陥れ、植民地支配と侵略によって、多くの国々、とりわけアジア諸国の人々に対して多大の損害と苦痛を与えました。私は、未来に誤り無からしめんとするが故に、疑うべくもないこの歴史の事実を謙虚に受け止め、ここにあらためて痛切な反省の意を表し、心からのお詫びの気持ちを表明いたします。また、この歴史がもたらした内外すべての犠牲者に深い哀悼の念を捧げます。

敗戦の日から 50 周年を迎えた今日、わが国は、深い反省に立ち、独善的なナショナリズムを排し、責任ある国際社会の一員として国際協調を促進し、それを通じて、平和の理念と民主主義とを押し広げていかなければなりません。同時に、わが国は、唯一の被爆国としての体験を踏まえて、核兵器の究極の廃絶を目指し、核不拡散体制の強化など、国際的な軍縮を積極的に推進していくことが肝要であります。これこそ、過去に対するつぐないとなり、犠牲となられた方々の御霊を鎮めるゆえんとなると、私は信じております。

「杖は信に如くは莫し」と申します。この記念すべき時に当たり、信義を施政の根幹とすることを内外に表明し、私の誓いの言葉といたします。